

令和 7 年 3 月 5 日

会議事項

(1)「居場所」について

○報告レポート作成

○活動の今後について

それぞれについてグループワークを行い、最後に各グループから発表。

・CS グループ

話合いをした中で、「CS という活動は終わりのない活動」という言葉が心に残った。今後の活動については、今までの活動をスキルアップしていくのはいかがでしょうかという意見が出た。「CS コーディネーターの横のつながりを作りたい」という目標はほぼ達成したという意見が出た。

区長会など地域に対しても CS をアピールしていくことが必要と感じている。地域の中に情報が行き届いていない状況を実感している。社会教育委員が CS のことを地域に理解してもらうにはどんなことが必要なのかということが問われていると感じている。

・子育て支援グループ

名刺サイズの相談先がシンプルに記載されたカードをサンプルとして作成した。

県の相談窓口が記載された案内の紙をよく学校では配っているが、いざ電話してみると話を聞いてくれず市の窓口を案内されて 1 から説明し直すケースが多いことが分かった。あちこちに電話するとなると、相談する側も「しんどい」し、しんどい上に何度も同じ話こと言わなくてはならず疲弊してしまう。そんな声を聴いて佐久市の「ここに電話をかければいい」という窓口を 2 つに絞ってシンプルに掲載した。話合いの中で対象者が子どもか大人か分かりやすくする、相談の受付時間を記載する等新たな改善点も上がったので、修正をしていく予定。例年 GW 後に相談が増えるので早めに取り掛かり、配布までしたい。

何度も同じ話をするというのが問題だと考えているので、相談を受けて別部署に回す必要がるときは相談者の了承を得て、情報共有してくれれば、何度も同じ話をしなくてよくなると考えているので、相談を受けている部署に提案していきたい。

今後については、「居場所」というテーマの中で「多世代に渡る地域の居

場所」に着目した活動をしていきたいと考えている。カードについても作りっぱなしにしないで、アップデートしていきたいと考えている。

(2) 上田市立第六中学校サポートルーム見学のとまとめ

見学参加した委員からの感想等

- ・サポートルームで全体の雰囲気や携わっている先生の姿を見て、のびのびと過ごして「来たい」という気持ちでサポートルームへ来ているように感じた。佐久市でも生徒が自由にのびのびと学んでいけるような雰囲気を作っていければいいなと感じた。
- ・先生だけでなく、大学生がいたことも良かった。
- ・広々としていて色んな場所で勉強ができたり、研究ができたりいい場所だなと思った。ただ、サポートルームに来て登校扱いにならないことを聞いて少し残念に感じた。上田市には六中も合わせて5ヶ所教室以外の居場所があると聞いたが、佐久市には1つ（浅科チャレンジ教室）だけしかないのでもっとあってほしいと思った。一方で佐久市のチャレンジ教室は登校扱いになるので、その点は進歩していると感じた。

(3) 社会教育委員だより「そよかぜ」について

「そよかぜ」は2019年5月に第1号を発行して、今回第12号を発行した。次の任期からは社会教育委員さんの方で編集委員を決めて自主的に発行スケジュールやテーマを決めていく活動はどうかと事務局では考えている。

校正や印刷、配置はこれまで通り事務局で行っていく予定ではあるが、次の任期からは社会教育委員さんに自主的に活動をお願いしたい。社会教育委員の今後の活動に関わることもあるので、次の会議でも検討をしてほしい。

〈委員からの意見〉

「そよかぜ」が目につきにくいという意見が上がっている。せっかく作ったなら見てほしいと思うので、置く場所についても工夫していきたい。

(4) その他

〈事務局より連絡〉

- ・公民館報4月号（広報佐久の後ろのページ）の「瀬音」というコーナーで小山委員に原稿を執筆していただいたので、発行されたらぜひご覧ください

い。

- ・任期が変わるにあたり推薦していただいている選出母体へ推薦依頼をしているので、継続について相談があるかもしれないことを承知しておいてほしい。
- ・次回会議は年度変わって4月頃を予定している。